

道徳

教えて！加藤先生

教えて！土田先生



千葉大学教育学部教授

土田 雄一

「小学道徳 ゆたかな心」(光文書院)監修者



筑波大学附属小学校教諭

加藤 宣行

「小学道徳 ゆたかな心」(光文書院)監修者

道徳授業充実のために
(思考ツールの活用と板書の構造化)



子どもの意識を継続させる
ことの大切さ

道徳科の目標には「物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習(後略)」とあります。では、どうしたら多面的・多角的に考える授業となるのでしょうか。

今回の「道徳授業／誌上チェック&アドバイス」の星崎先生は「マトリクス(表)」を使って、「きまりがあることの長所」と「課題」を整理しています。それにより子どもたちは「元々みんなが気持ちよく過ごすためのもの」であったことに気がつきます。ねらいとする「きまりの意義を考える」一助となっているのです。

また、「Q&A」の名和田先生も「図で考える」方法を取り入れ、表層部分「女の子だから」→「キャプテンだから」→「(男女関係なく)一生けん命練習しているから」等と考えが深まるプロセスを板書に表しています。視覚的に分かりやすい構造的な板書によって、理解が深まり、「心が動く」のです。

その他、ウェビングやYチャート等の思考ツールもおすすめ。道徳的なねらいを意識して活用したいですね。

夏休み前に、「日常の中の道徳を探す」という宿題を出しました。宿題といっても、無理やり探すというもおかしな話ですし、こじつけになってしまっては本末転倒ですから、「あったら教えてね」程度です。

ところがどうしてどうして、子どもたちは様々な観点から思い思いのテーマを見つけ出し、道徳ノートに何ページも書いてきました。例えば、「小さな親切をしたこと」とか「身近な生き物から考えた生命の大切さ」等、授業で考えたテーマに関する話題をさらに深めようとしている姿が見られました。

また、日常のニュースを取り上げて自分なりの考察を加えてきたり、「電車の中で破れた袋を持ったおばあさんに出会いました。教えるか教えないか迷いました。だって……。先生だったらどうしましたか。」等、即答できないような問いを投げかけてきたりする子もいました。

意識が継続していると、子どもたちは面白いように様々な問題提起をしてくれます。二学期の授業がますます楽しみにになりました。